

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団福本会		
事業所名	グループホーム和樂		
所在地	熊本県天草市牛深町1641番地1		
自己評価作成日	令和 2年 1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中の小高い丘の上に立地している、中庭には、四季折々の季節を感じられる花々を眺めることができます、又、祭り時期には子供神輿や園児たちの踊りを見ることができ、交流の場になっています、年1回の牛深ハイヤ祭りには、職員も参加するので、殆どの入居者の方が見学することが出来るスペースをつくり楽しんでもらっています。医療面の連携においても母体の病院があり、利用者の方、ご家族の方にも安心していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の入れ替わりはあるものの、開設時より変わらぬ管理者とあまり変動も無い職員体制は、入居者・家族への安心感や信頼感を与えている。心身の症状の厳しい面も認知症としてだけでなく多角的に見て全てを受け入れ、言動や行動をあるがままに受容していることがプランに表れている。最高齢102歳、白寿祝いを済ませた方等高齢化にある中で、園児や中学生との交流等世代を超えた交流や老人会・婦人会のボランティアとしての訪問等が継続され、牛深ハイヤ祭りや花火大会等入居しても楽しむことが出来る環境に、理念として掲げる「和やかに 楽しく」が具体的に表れている。また、白寿祝いに寄せられた家族の思いの深さや、今後一層重度化されるであろう局面にも「ケアが楽しい」との職員の声や、日々学びとして捉える姿勢に敬意を表したいホームである。家族との交流が今後も継続されるであろうと大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「和やかに楽しく」は、毎日、いつでも確認できる場所に掲げられていて、入居者の皆さんの笑顔を見ることができている、職員は常にサブテーマに沿って実践に繋げている	ホーム名が理念の意義そのものとして、当初から“和やかに楽しく”を掲げ、掲示による意識付けや申し送り時に入居者個々の情報を共有している。最高齢102歳を筆頭に高齢化という現状ではあるが、入居者も書初めに1年の目標をしたため、全員の入居者の満足した日々を支援したいと常に個々の表情等確認する等、理念をケアに直結させたいと意思統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会長や区長さんが知り合いだったり、近所の方だったりする方もおられ、自然と会話ができて、老人会の新聞等も持って来てくださり地域との交流は出来ている、また保育園児も来てくれたり、中学校生徒との交流会も行っている	老人会の新聞の持ち届け、中学校で行われる牛若会や地区の老人会の誕生会へ招待されたり、婦人会からのボランティアとしての訪問、防災週間には園児の訪問等世代を超えた交流に取り組んでいる。また、福祉まつり(シルバー作品展)への参加に向けた作品作りは入居者の残存能力を引き出すとともに、展示品の見学への外出は近隣住民との接点として生かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや認知症についての相談等、家族の方より電話相談を受ける時もあり、話を十分に聞いたりアドバイスをすることで相談された方は不安や心配が軽減されている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で入居者の方の行動等、困ったことがあれば相談し意見等いただいている	定例化した運営推進会議は、交流・行事等の報告や事故・苦情等の報告をもとに意見交換が行われている。また、年間の目標についての意見や防災訓練への提案等が委員から挙がる等有意義な会議である。	職員が参加したユマニチュードについての報告は委員も興味を示される等工夫した会議である。回を重ねることで形骸化しかねない。今後もホームの課題を議題に上げる等の工夫に期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの研修会の参加などは、できるだけ参加し共有し、ケア、質の向上に向けて取り組んでいる、行政の方が運営推進会議に参加して下さるので相談にすることもある	行政から寄せられた(メールや郵送)情報による研修会への参加、認知症の進行に伴い行政への相談、地域包括支援センターからの情報である在宅生活困難者問題や入居相談等相互に協力しあう関係が築かれ、あんしん相談員を利用している。また、災害時の避難場所としての役割も担っており、台風時等の受入について地域包括支援センターと相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口の外はウッドデッキになっていて、リビングからも見透視のよい環境である。洗濯物の出し入れや簡単な体操を行ったりと外気に触れる事で気分転換にもなっている。玄関は常に開錠しており、ご家族も自由に出入りされている	拘束は行わないホームとして「拘束ゼロ宣言」を掲げたホームである。身体拘束等の適正化のための指針を作成し、ホーム内外の研修への参加や、職員にアンケートを行い、意識を強化させている。安全委員会の中で、食べてもらおうとする言葉がけが拘束に当たるか等事例を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や外部での研修等に参加し、施設内での対応が虐待に当たらないかを検討している。また、職員で悩んでいる事があると聞いてもらったりして、ストレスから虐待へと発展しないよう心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での勉強会に参加し、その資料を閲覧し理解してもらっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はそれぞれの書類の内容を時間をかけて説明しています。改定等がある時は文章にして説明し理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご家族へは、毎月、担当者が書面にして現状を報告しています。来訪時は談話をしてご家族の気持ちを聞いたりしています	玄関先の意見箱の他、家族の訪問時に家族の意見や要望を収集し、職員で検討している。また、担当者が書面で発信したり、「和楽通信」により情報を共有し、入居者の思いには家族に代言する他、ホームでできる事は叶えている。	家族会は最近開催されていないとの事。家族との交流会等を検討いただき、今後も家族の忌憚りの無い意見や要望をホーム運営に反映いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	お昼休みや空いた時間に職員それぞれに意見を聞き、情報の収集や反映に努めている	職員は法人の年間スケジュールのもと各委員会の勉強会に参加し、ケア向上や意識の統一を図っている。各ユニットの管理者は日々ケアに入り、コミュニケーションを図るとともにストレスチェック(年2回)等を行い、ストレス無くケアに当たるとして1対で話を聞く時間を作っている。管理者を中心に風通しの良い関係が築かれ、何事も言える環境として生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが得意な分野を発揮してもらっている。その内容を年2回の人事考課に記載しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や外部研修に参加できるよう配慮している。また、認知症の方の援助方法として、その時に応じてアドバイスを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属し、会議内での意見交換や、終了後の施設訪問で情報を得てサービス向上に努めています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な表情が見られた時や、要望、訴えがあった時は、寄り添ってコミュニケーションを図りながら安心して生活できるよう環境作りをしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの場で、家族の思いや意向をくみ取り、本人様を交えた会話や何でも話せる雰囲気作りをしたサービス提供により信頼を得るよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様が必要としている支援を家族の要望を聞いた上で、本人様、家族の思いに沿ったサービス提供ができるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできる事を本人様のペースで行い、共に支え合う環境作りに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活や状態を毎月報告し、受診同行やイベント参加に声掛けして、家族の方と共に支え合う環境作りに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容院や買い物等の外出支援行っています。知人の来訪時はゆっくり過ごせる場を提供しています	家族や知人の訪問、正月の外泊や外出、家族との外出(案山子見学)や自宅で針灸を利用していた方は入居しても利用される等馴染みの関係を継続させている。幼馴染という入居者同士や白寿の祝いを家族総出で行われたり、伝統行事(牛深ハイヤ祭り)見物、七夕短冊作り等これまでの人・場所との関わりを継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で過ごされている事も多いです。お互いが自分の部屋に誘われたりしています		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の方にお会いすると近況を伺ったり、入院された場合は、親しかった利用者様と一緒に見舞いに出かけたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや本人様との会話や表情から、希望や意向の把握に努めています。また、ご家族からも情報を得て支援しています	入居者とのかかわりの中で希望等を聞き取り、その思いをプランに反映させたり、身振り・手ぶりで思いを寄せられる入居者、意思表示の無い方には職員から投げかけたり、行動等を推察しながら本人の思いに応えようと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やご家族から、これまでの暮らしや馴染みのある暮らしぶりの情報を得ながら、これまでの生活に近い状態でおくれるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の生活のリズムを把握し、無理のない程度でできる事に参加していただいている。その中で個人の力等を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族との関わりの中で、思いや意見を理解し、担当者会議において気づきやアイデアを出し合い反映できるよう努めています。また、モニタリングは各担当者が行い、次の介護計画へと反映しています	プランに即した記録へと変更することでプラン内容を理解したケア及びプラン見直しに反映させている。モニタリングにより継続可否を見極め、大きな変化には再作成しているプランは個別且つ具体的である。家族にたくさん会いたいとする思いをプランに組み入れたことで穏やかな生活へと改善が見られるケース等入居者の思いを反映させている。家族には介護記録を開示し、家族との対応経過記録など記録も充実しており、家族の意向も具体的に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄、身体的状況を個別に毎日記録し、本人様の言葉や変化等があれば記入しています改善しなければいけないことがあれば、みんなで話し合い、介護計画の見直しに生かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態やご家族の意向に沿いながら支援していますが、違いが生じた時は、理解していただけるよう柔軟な対応に努め支援を行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の踊りやダンス等の披露では、お礼の言葉を言ってくさったり、ホーム内での行事には、家族や近隣の方の協力を得て、一人ひとりのペースに合わせて楽しみながら参加できるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である内科の受診には、スタッフ同行し、検査等がある時は家族にも付添お願いしています。歯科には、家族同伴でかかりつけ医を受診されたり、提携医に訪問診療をしてもらっています	全入居者が母体医療機関をかかりつけ医として、定期受診に出向いている。入居前から同医療機関をかかりつけとした方が多く、馴染みの関係性ができている。検査などには家族に同行依頼し、直接担当医師の説明を受けることで状況を共有し、職員はいつもの違いを把握し、対処法等を聞き取りし、早めに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックでの異常や様子の変化が見られた時は、母体である病院に連絡して指示をえている。また、月2回の訪問看護で情報を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は情報提供書を作成、退院の時は医療連携指示書を受け取り、退院後の介護支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が病院である為、ほとんどの家族が病院を希望されています。事業所内で支援できるまでは家族、主治医と相談しながら、その人らしく生活できるよう支援しています	入居時に入居者の状態変化に伴うホームの方針を説明している。食事の口腔摂取の可否など、入居者の状態を見ながら担当医や訪問看護師と連携し、家族を交えた話し合いで母体への入院を決定している。大半の家族が医療支援の継続を望まれていることから、終末期支援はないものの、職員は入居者の一日でも長いホーム生活をと真摯にケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修には積極的に参加しています。また、マニュアルを作成し、スタッフ間で共有できる様に努めています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の避難訓練を行っています。スタッフが利用者様となって、車椅子に移乗しての避難や、災害時の避難場所への移動時間を計測したり、夜間一人での体制を考慮し、近隣者の協力を得、一緒に参加行っている	年2回火災を想定した避難訓練を実施しており、うち一回は消防署の指導を受けている。運営推進会議を利用した訓練では、実際に地域の避難所まで歩いて時間や経路を確認している。災害への意識が高い地域であり、地区別に自主防災訓練が行われている。法人で備蓄を管理する他、日々の火元チェックを日誌に記録して、意識付けを図っている。	訓練は火災想定に留まっており、今後は風水害や地震など自然災害の訓練の必要性が望まれる。また、備蓄についてはホーム単独で確保できる様検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方を尊重し、言葉使いや失礼な態度がないよう対応に気をつけています。訪室時のノック、声かけは必ず行いプライバシーの確保に努めています	職員は入居者への言葉掛けについて話し合いの中で、食事や排泄時の誘い方を入居者個別に検討している。日頃の会話にも入居者に馴染みのある方言を使いながら、馴れ合いや幼児語にならないよう心掛け、呼称はユニット毎に苗字や入居者に反応があるこれまでの呼び名で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情の仕草から思いを感じとれるようコミュニケーションを図りながら自己決定ができるよう働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムに合わせ、その中で本人の希望されることを優先に出きられるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は利用者様本人が選ばれ希望されるのを着用されています。時にはスタッフと相談されて選ばれたり、また、散髪や髪染めの希望があれば、行きつけの美容院へと出かけられます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな献立を取り入れ、野菜等の下ごしらえを分担されています。後片付けも食器拭きをすすんで行なわれています	週3回(水・金・日)をホーム調理とし、食材は法人厨房からの配達となっており、他日は法人で調理されたものを提供している。各ユニットではごぼうのさがきや下膳・食器拭きなど入居者が出来ることで調理に参加しているが、年々手伝う方が少なくなる状況にある。誕生食に小豆ご飯やケーキを取り入れ、季節の行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、食材を刻んだりミキサーにかけたり、分量の調節をして提供しています。水分もこまめに提供、記録もして量の把握に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、介助を行っています。義歯使用の方には、就寝前には義歯洗浄剤を使用したりして、個々に合った口腔ケアに努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けや誘導を行っています。夜間移動に不安な方には、自室にポータブルトイレを設置し、安心や周りを気にせず排泄ができるよう努めています	職員は個別の排泄パターンを記録し、定時の声掛けや誘導、個々の間隔に応じ日中はトイレでの排泄を基本としている。排泄用品は尿量や時間帯によって必要なものを検討し、夜間帯はポータブルトイレを使用する方もおられる。布パンツで過ごす方の中には自身で洗濯をされる方もおられるようである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分補給やヨーグルトを提供しています。また、レクレーション時簡単な体操を取り入れ便秘の予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛け行い、本人様の希望を優先していますが、入浴が苦手な方には、時間をおいて声掛けしたり一人ひとりが、ゆっくりとはいれるよう支援しています	毎日入浴の準備を行い、好きな時間帯の入浴であり、介助の必要がなく一人で入れる方の自立を尊重し、安全確認を行いながら見守り、介助の必要な方には、1対1でゆっくりと入ってもらうように支援している。シャワー浴の方には特に冬場の温度差を考慮し、足湯やかけ湯で温まってもらうように工夫している。冬至のゆず湯や家族との温泉にも出かける方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活パターンを把握し、休みたい時に休んでいただいている。また、本人様で使用されていた物や寒さを防ぐボアシート等を使用され、気持ちよく眠られるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診から処方までを個人の記録に記述し、変化等があれば、申し送りやスタッフ間の連絡ノートに記載し、全員が理解できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様との会話やご家族からの情報を元に、得意な事や好きな事を把握している。それらをレクリエーションの中に取り入れたりして楽しみがもてるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば美容院や郵便局等外出の支援しています。また、ご家族との買い物を楽しみにされている方もいて、一緒に出掛けられています	地元の代表的な行事である牛深ハイヤ祭りには、場所取りをして全員で外出し、馴染みの祭りに入居者が喜ばれたようである。地域の敬老会や郵便局へ手紙を出しに出かける等には個別に応じ、家族による買い物や温泉への外出支援が行われている。散歩に行きたい等の声にはホーム周囲を一緒に回っている。	開所時からの庭の桜はホームのシンボルであり、春には入居者の目を楽しませている。超高齢化にあっても外出できる環境が作られており、この春は地域へ出て花見をしたいと検討されており、大いに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進行しほとんどの方が館内で預かり管理して、出納帳をつくり家族に確認を得ています。生活必需品は、依頼があればスタッフが購入したり、行ける方はスタッフ同行し買い物支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されればいつでも使用できる環境を作っています。また、お手紙がかける方は投函をスタッフに依頼されたり、知人とのやりとりもできています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは中庭をながめられ、春夏秋冬の草花や木々、それと、畑の作物の成長ぶりを楽しまれています。また、自室は日当たりがよく、居心地の良い環境です。リビングを出ると、ウッドデッキになっていて、天気の良い時はそこで手すりにつかまり、深呼吸や足上げの運動されています	各ユニットから中庭の自然を望み、草木の変化を眺めながら過ごしている。玄関に続くウッドデッキは改修工事によりフラットになっており、車いすの方が多くなった現在、使い勝手に配慮している。リビングにはシルバー文化祭に出品した入居者の手作り作品が飾られ、居心地の良い空間で日中の大半を過ごされている。8月の花火大会を入居者が並んでホームから声援を送る等仲睦ましい様が写真から推察された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファールがおりてあり、いつでもくつろいでもらう事ができます。一人でテレビを見られたり、また、お互いが誘い合い一緒に座られ会話等されています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から大切にしていた物等の持ち込みもあり家族との思い出の写真などを見られて、居心地良く過ごしていただいています	入居者に馴染みのある品の持ち込みを家族に依頼しており、タンスは備え付けの物があるものの個人でも持ち込まれている。テレビや冷蔵庫、衣類や家族との集合写真が置かれた部屋もある。入居者の中にはベッド上の手の届く範囲に、ティッシュやタオル、小物などを所狭しと並べ自分流に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の壁には手すりが設置してあり、自室から出るとつかまりながら移動できる環境づくりがしてあり、自力での歩行や転倒を防ぐ工夫がしてあります		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「和やかに楽しく」は、毎日、いつでも確認できる場所に掲げられていて、入居者の皆さんの笑顔を見ることができている、職員は常にサブテーマに沿って実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会長や区長さんが知り合いだったり、近所の方だったりする方もおられ、自然と会話ができて、老人会の新聞等も持って来てくださり地域との交流は出来ている、また保育園児も来てくれたり、中学校生徒との交流会も行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや認知症についての相談等、家族の方より電話相談を受ける時もあり、話を十分に聞いたりアドバイスをすることで相談された方は不安や心配が軽減されている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で入居者の方の行動等、困ったことがあれば相談し意見等いただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの研修会の参加などは、できるだけ参加し共有し、ケア、質の向上に向けて取り組んでいる、行政の方が運営推進会議に参加して下さるので相談にすることもある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、日中は解放されている、一人ひとりのケアについて身体拘束にならないか申し送り等の中で話し合うことで身体拘束をしないケアができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加している、申し送りや、話し合いの場で、虐待防止のため、個々のケアのあり方について意見を出し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し職員間で情報を共有している、問題があればその都度話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす前に、本人様に馴染んでもらえるようショートから始めてもらい締結している、家族との数回の話し合いを設け理解し納得してもらい、相談も受けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	和楽通信を年4回配送していて、ホーム内での様子等知ってもらえている、遠慮なく意見や相談することができる環境作りに努めているので、家族の来訪時に相談や意見をもらうこともあり、運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内での各委員会に、殆どの職員が属している、月1回は委員会・会議が開催され、多くの意見、案等出し、話し合える場を設けていて、業務やケアに反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望も柔軟に適えられていて、急用等あれば、休むことも勤務時間の交代も早急に解決できる、法人では、年2回自己評価表を提出することで評価されている、各自が向上心を持って仕事ができるよう職場の環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には必ず参加するようにしている県内・市内での研修にも参加してもらっている、新人教育に関しても、関わり方や仕事の内容を理解できるようにその都度指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会が年4回開催されており、ケア・サービス等の研修会に職員が参加し、質の向上に繋げる取り組みをしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の方や本人から得た情報をスタッフ間で共有し、いつでも誰でも対応することが出来るようにしておくことで、安心して過ごせる居場所だと思えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、安心して過ごせるよう、要望等は出来る限り迅速に対応していくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との十分な話し合いを行い必要な支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃、調理の下ごしらえ等の家事を一緒に行い、時には昔ながらの知恵を授かることで、共生関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族の方には年4回の和樂通信での便りや電話での会話や、無理のない範囲で面会や外出・外泊の支援を行っていただくことで、家族の時間を設け、本人の安心に繋がっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室の利用やボランティアの受け入れで、知人の方との交流の場を設けている。ご家族の支援で定期的に美容院や温泉に行ける方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性に添って、席を配慮したり、会話しやすい環境作りに努めている、難聴の方が多いため、職員が間に入る事で、お互いの意思疎通がスムーズにいくよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の殆どの方が母体の病院に入院されるため、様子を観に行ったり、家族の方と会う機会も多く退居されてからも状況報告等や、相談されることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や心理面などを理解し、家族等からの情報を集めている、担当者を中心に、意見を出し合い個々のケアの充実に努めている、又、申し送りや入居者連絡帳にてケアの統一に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネ、家族、本人等からの情報を基にこれまでの生活が維持できるよう、これまでの暮らしや生活環境等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の生活パターン等を職員各自が把握しているので、いつもと違う気付きがあればカンファレンス等で情報を得ることができ、現状把握に努めることが出来ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望等を聞き、安心して生活できるよう課題に取り組み、サービス提供書の下、問題があればその都度、見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りで、いつもと違う気付きがあれば報告し、大事なことはケアノートや、入居者に関するノートを職員全員が記入し情報を収集でき、意識やケアの統一に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が病院である為、定期受診や異常変化があれば、主治医に報告し適切な治療を受けられるよう支援します、また月2回の訪問看護では、入居者の健康状態など本人に聞きながら対応していて柔軟な支援ができています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊りをボランティアの方が披露にて下さったり自宅にいる時と同じように、地域の方、お友達の方や老人会長さんが老人会の新聞など持ってきた下さる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診では、主治医の先生と馴染みの関係にあり、時間に限らず対応してもらえ、入居者や家族の希望や要望も納得しえもらえる診察をしてもらっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や変化があればすぐに病院に報告し入居者の名前も知らせているので、スピーディーに受診や診察ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を送り、近況や介護状況を報告している、入院時は職員も情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が病院である為重度化や終末期に近づいて来ると病院に転院することで家族の安心もあり、看取りは行っていないが、看取りに向けた取り組みは共有しながら日々支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の病院で勉強会があり実践することもできる、急変時は、主治医に連絡し指示を受けている初期対応は誰でも出来るように常に復讐、シミュレーションし、緊急事等に対応できる備えをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中でも災害の話合いも多く地域の防災訓練への参加に行くようになっている、年2回の訓練も昼間・夜勤体制での火災訓練を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、その人らしさを大切にしている言葉かけにおいては、その人に合わせたペースで話し掛けたり、声の大きさ等にも配慮しながら支援している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の表情・言動などから、思いや希望をくみ取り、それに沿っていくつかの提案をし、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを理解した上で無理強いせず、本人のやりたい活動がある場合は希望にに沿った支援をし、他の方とも一緒に過ごせる活動も支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に各自行かれたり、家族同伴で行かれている、その日の着たい服は自身で選んできてもらえるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握した上で、苦手な食材は別の食材に変更するなどして対応している、調理日には、野菜の下ごしらえ等手伝ってもらっており、楽しく食事できるよう支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を記録し把握することで、食事量の少ない方には、食べ物の工夫をし、その人に合ったミキサー・刻み食・とろみ剤を使っての提供をし嚥下がスムーズに行っていただけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清潔保持の為に、口腔ケアや夜間の入れ歯洗浄を行なわれている、介助が必要な方には、その人に応じたケアの介助をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンにより統一したケアを行い自立に向けたトイレ誘導や残存機能を活かしたトイレ誘導を行い、誘導時の声掛けにもその人に合った声掛けを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を観察、把握し便秘等の方には、食物繊維の多い食べ物の提供や、主治医に相談して便秘薬で調整したり、苦痛の無いようスムーズに排便できるよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できることで、自分の入りたい日、時間に入浴することができる、自立されている方は時間にも縛られることなくゆっくり入浴されている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣、状態、状況を把握し、就寝介助・支援を行っている、寝具についても、馴染みのものや、その人に合った布団等を家族の協力もあり、良眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、毎回チェックを行い、変更があれば、薬手帳等で、目的・副作用・用法・用量について職員間でケアノート等で共有、理解することで服薬支援ができています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク等でその方の得意な事を把握しているので、日々活動の選択し気分転換できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望されたり、こちらから誘うことで出かけられると表情も良くなり、本人様の気分転換になっている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がお金の管理は出来ないため事業所管理となっているが、家族の方がお小遣いを渡され自分で管理されている方は、床屋に行かれると、自分の財布から支払いされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば必ず対応する事で安心されている、携帯を持っている方もいて、自由に掛けたりかかったりしていて、手紙や絵ハガキもサポートしながら家族とのやり取りの支援ができています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関先に季節感のある花や、皆さんで取り組んだ作品等を置き、来訪者の方との会話も弾む、リビングは日当たりが良く、日光浴が出来、人気の場所がある		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常的に自由に過ごしてもらっている、日々を穏やかに過ごしてもらえる空間作りに努めている、入居者同士のトラブルには即座に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある、使用されていた物、ダンス、テーブル等持ち込んでもらい、自分の家の様に過ごされている、新聞も取って読まれている方もおり、居心地良く過ごされている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランに沿って残存機能を活かし、その方にあった安全な支援を行っている		